

# 児童養護施設職員の児童養護施設の改善に関するニーズと

## 職務継続意思に関する一研究

Text Mining Studio によるテキストマイニング

八城真里(明治学院大学)

### I. 問題

近年、児童養護施設の入所率は増加をたどり(保坂, 2004)、被虐待児の入所の増加もあって、処遇の困難なケースが多くなっている。そのため、関わる職員のより高い専門性が求められている一方、職員の身体的・精神的負担が加速化し、児童養護施設職員が離職にいたるケースも多く、職場定着率の低さや職員の入れ替わりの激しさが危惧されている(岡本, 2000 他)。この援助者の離職や入れ替わりの激しさは、当事者だけではなく、一緒に働く同僚そして入所児童にも大きく影響を与えることと考えられる。そこで、児童養護施設職員の職務継続意思にどのような要因が影響しているのかを知ることは、職員の離職を防ぐ手立てを考える際に、どのような支援をすることが有効であるのか示唆を与えるものと思われる。また、職員の離職を防ぐということは、子どもたちにとってもより安定した関係の持続を意味し、質の高い支援を受けられるという意義も大きい。

八城(2008)は、現場で働く児童養護施設職員を対象として、職務継続意思に影響をおよぼす諸要因に関する研究として質問紙調査を行なった。この質問紙調査は、社会福祉法人全国社会福祉協議会全国児童養護施設協議会のホームページにて公開されている児童養護施設リストの住所に基づき、557施設に往復はがきにて調査協力依頼をし、協力許可を得られた施設の児童養護施設職員 1313 人に配布され、1024 人(78%)の回答を得ている。

### II. 目的

本研究の目的は、八城(2008)が行なった質問紙調査の自由記述を分析することにより、児童養護施設職員が現状をさらに良くしていくためにどのようなニーズを持っているのか、および援助者を長く続けたいと思っている職員とそうではない職員とではどのような特徴があるのかについてテキストマイニングの手法を用いて明らかにすることを目的とする。

### III. 方法

本研究の分析データは、八城(2008)が行なった質問紙調査の自由記述部分に回答のあった 826 人(81%)のデータを使用した。サンプルの構成は、男性 274 人(33%)、女性 552 人(67%)であった。なお、教示文は、「あなたは児童養護施設の現状をさらに良くしていくためには何が必要だと思われますか?」となっている。質問紙調査自体は 2007 年 9 月～10 月に実施されたものである。

### IV. 結果

Text Mining Studio ver2.2 を使い分析を行った結果は以下の通りである。まず、データ全体の構造や特徴を把握する。

## 1. 全体分析

### 1) 基本情報

はじめに前処理を「分ち書きと係り受けの自動連結」で行なった。テキスト情報の基本情報を見ると、表 1 より、総行列数は、826 行で、平均行長は、24.7 文字であった。総文数は、1,661 文で、平均文長は、12.6 文字とかなり短めであった。述べ単語数は、7,542 単語で、1 サンプルあたり 9.1 単語、1 文あたり 4.5 単語となった。テキスト情報の品詞別出現回数は、名詞が 5,626 回で 75%を占めている。次いで動詞の 1,160 回(15%)、形容詞 316 回(4%)、副詞 303 回(4%)となっている。

表 1. テキスト基本情報

項 目	値
総行数	826
平均行長(文字数)	24.7
総文数	1661
平均文長(文字数)	12.3
述べ単語数	7542
単語種別数	1937

(n=826 人)

### 2) 頻度分析

#### (1) 単語頻度解析

単語頻度解析を合計で見る(表 2-1)。解析の結果より、課題上主語となりうる「職員」(333 回,5.2%)、「子ども」(231 回,3.6%)の 2 単語が上位を占めている。その 2 単語を除くと、単語出現頻度では「増やす」という動詞が 153 回(2.4%)と最も多い。次いで、「職員数」(114 回,1.8%)、「必要」(109 回,1.7%)、「支援」(69 回,1.1%)、「施設」(68 回,1.1%)となっている。

表2-1.全体単語頻度解析 [上位20]

単語	品詞	頻度
職員	名詞	333
子ども	名詞	231
増やす	動詞	153
職員数	名詞	114
必要	名詞	109
支援	名詞	69
施設	名詞	68
向上	名詞	67
職員配置基準	名詞	67
職員同士	名詞	58
良い	形容詞	53
多い	形容詞	49
持つ	動詞	46
人	名詞	46
余裕	名詞	46
見直し	名詞	43
連携	名詞	41
数	名詞	39
改善	名詞	37
環境	名詞	37

## (2) 係り受け頻度解析

係り受け頻度解析を品詞設定＝イメージで出力し合計で見る(表 2-2)。このデータの持つキーワードとしては、「支援→必要」が最も多く、次いで、「職員数→少ない」、「施設→小規模化」となっている。結果から「負担→多い」、「負担→大きい」と同義であると思われるキーワードが挙げられていることがわかる。原文検索したところ内容として同義であることが判明した。「多い」「大きい」ともに同単語で別の意で使用しているものがあるため、同義語としてまとめることはできないが、ここに挙げられている係り受けは同義でまとめられると考えると、「負担→多い(大きい)」は頻度が 6 件となり、キーワードの上位にあがってくるのがわかる。

表2-2.全体係り受け頻度解析(品詞設定＝イメージ) [上位10]

係り元単語	係り元品詞	係り先単語	係り先品詞	頻度	割合
支援	名詞	必要	名詞	12	2.4
職員数	名詞	少ない	形容詞	8	1.6
施設	名詞	小規模化	名詞	7	1.4
子ども	名詞	良い	形容詞	6	1.2
見直し	名詞	必要	名詞	5	1
指導	名詞	必要	名詞	4	0.8
余裕	名詞	必要	名詞	4	0.8
環境	名詞	必要	名詞	3	0.6
参加	名詞	必要	名詞	3	0.6
子ども	名詞	多い	形容詞	3	0.6
人間関係	名詞	良い	形容詞	3	0.6
負担	名詞	多い	形容詞	3	0.6
負担	名詞	大きい	形容詞	3	0.6
雰囲気	名詞	必要	名詞	3	0.6
予算	名詞	必要	名詞	3	0.6

フィルタ条件を変更し、より緩やかな条件で再実行したところ、「品詞フィルタ＝行動」と「品詞フィルタ＝話題一般」では、ほぼ同じ結果になった(表 2-3)。また、以下の結果から分かるように、「職員数→増やす」、「職員→増やす」、「数→増やす」、「職員配置基準→増やす」とは、単語としてはまとめられておらず別々の結果として挙げられているが、内容としては“職員の数を増やす”ということについて述べていることが原文検索により分かり、同義と考えまとめると、「職員数→増やす」の頻度は 113 件とそれ以降に出現する単語と比べて突出して多く出現していることが分かる。なお、「職員数」と「増やす」の組み合わせ 55 件のうち、原文に戻して 13 件の一致が見られている。

表2-3.全体係り受け頻度解析(品詞フィルタ＝話題一般)

係り元単語	係り元品詞	係り先単語	係り先品詞	頻度	割合
職員数	名詞	増やす	動詞	55	1.9
職員	名詞	増やす	動詞	36	1.2
質	名詞	向上	名詞	23	0.8
子ども	名詞	関わる	動詞	15	0.5
数	名詞	増やす	動詞	14	0.5
支援	名詞	必要	名詞	12	0.4
職員同士	名詞	連携	名詞	11	0.4
専門性	名詞	向上	名詞	11	0.4
余裕	名詞	持つ	動詞	9	0.3
職員	名詞	負担	名詞	8	0.3
職員数	名詞	少ない	形容詞	8	0.3
職員配置基準	名詞	増やす	動詞	8	0.3
労働条件	名詞	改善	名詞	8	0.3

### 3) 注目分析(注目語分析)

注目語分析とは、注目したある単語について分析するものである。以下で2つの注目語を設定し、注目した単語についてより詳細に検討する。なお、図 1-1 と図 1-2 では、●の大きさは、単語の出現頻度をあらわし、線の太さは信頼度をあらわしている。

#### (1)「職員」

注目語の設定を最多頻出語である「職員」とし、共起関係(注目した単語が他のどのような単語と同時に出現しているか)の上位を見る。パラメータの設定をデフォルトで行ったところ 100 以上のノード(矢印)が出たため、ノード数を共起単語ネットワーク図として見やすい 20 以下になるように調整を行なった。共起抽出設定では最低信頼度 60、共起ルール 3 回以上、詳細設定では注目語を含む係り受け表現を 3 回、単語の最大表示数を 20 とした(図 1-1)。「職員」ということばに対して、職員のキャリアアップに関することを述べているまとめ、職員の数について述べているまとめ、職員の負担に関して述べているまとめ、職員のサポートや評価について述べているまとめ、職員の支援に関して述べているまとめに大きく分けることができる。

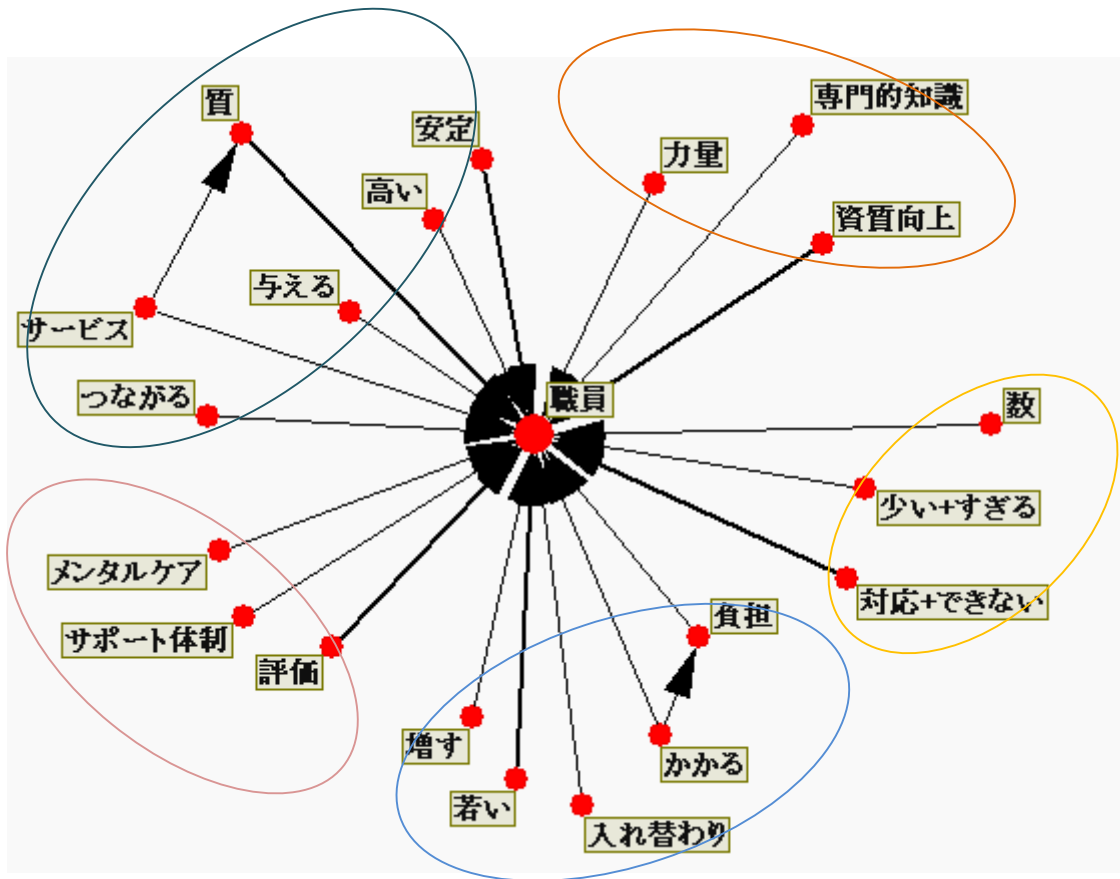


図 1-1. 全体の注目語情報 「職員」

## 2) 注目語:「子ども」の場合

注目語の設定を「子ども」とし、共起関係の上位を見る。パラメータの設定をデフォルトで行ったところ 100 以上のノード(矢印)が出たため、ノード数を共起単語ネットワーク図として見やすい 20 以下になるように調整を行った。共起抽出設定では最低信頼度 60、共起ルール 3 回以上、詳細設定では注目語を含む係り受け表現を 3 回、単語の最大表示数を 20 とした(図 1-2)。解析の結果より、「子ども」ということばに対して挙がっていることばの多くは「関わり」についてであり、関わりの量だけでなく、「誰が」「どのように」など質に関しても述べられていることがわかる。また、ノードの太さも太いものが多く、多くの職員が「子どもとの関わり」について述べていることがわかる。

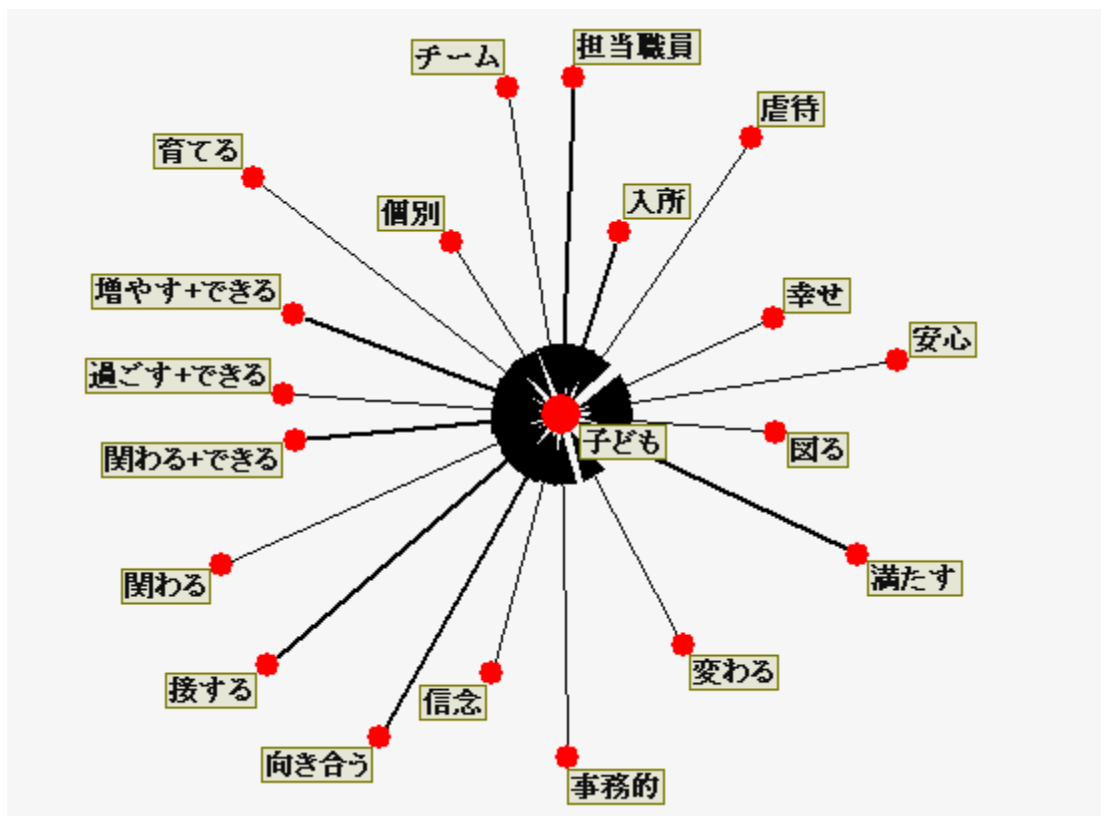


図 1-2. 全体の注目語情報 「子ども」

#### 4) 話題分析 (ことばのネットワーク)

ことばのネットワークとは、テキスト全体から関連の強いことばどうしをまとめて、いくつかのかたまりをつくることのできるものである。このかたまりをひとつの話題として捉えることにより、大まかな話題ごとに分けることができる。

抽出する関係を「係り受け」とし、パラメータは品詞設定を「イメージ」、係り受け頻度を2回以上で実行した(図2)。8つのクラスタに分けられたが、1つのクラスタに大きく固まってしまうため、単独の単語がでないようクラスタ数を変更した結果、13のクラスタに分けられた。

13のクラスタは、①「柔軟な対応」クラスタ、②「十分な関わり」クラスタ、③「職員配置基準を厚く」クラスタ、④「長く勤務できる」クラスタ、⑤「心身の健康」クラスタ、⑥「余裕が欲しい」クラスタ、⑦「心の安定が大切」クラスタ、⑧「手あつい支援が難しい」クラスタ、⑨「良い人間関係」クラスタ、⑩「職員が少ない」クラスタ、⑪「施設を小規模化」クラスタ、⑫「ニーズが多様化している現状」クラスタ、⑬「人を多く」クラスタ となっている。

ことばのネットワーク図は、826名の児童養護施設職員の方々のニーズの傾向が一目でわかるものとなっている。しかし、各クラスタ間の距離がどうなっているかについてはわからないため、各クラスタ間の距離を主観的に与え、PAC分析の手法を用いてクラスタの配置を行なった。

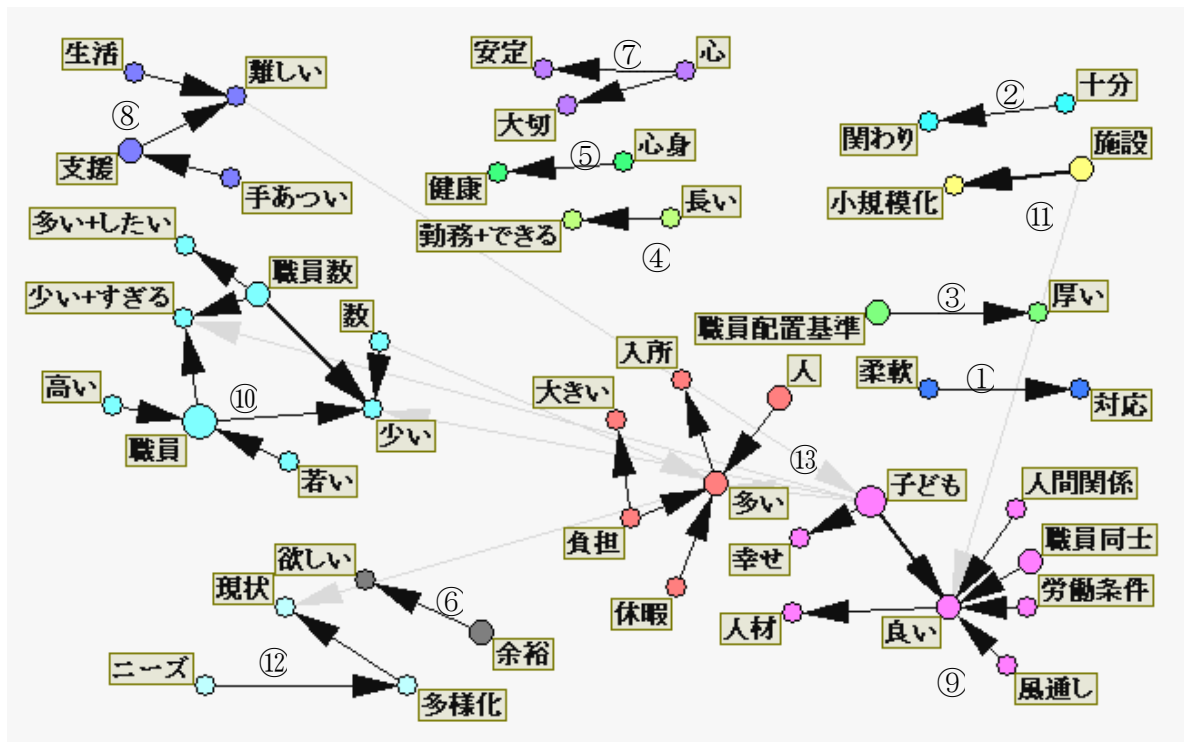


図2. 全体のことばのネットワーク(係り受け関係を抽出)

## 5) 評判分析(評判抽出)

評判抽出とは、単語に対して、好意的な表現・非好意的な表現それぞれで語られた回数をカウントし、それをもとに好評語・不評語のランキングを作成するものである。

結果より、肯定的、否定的の両方に出現したことは、「子ども」「現状」「職員」の3語となっている(表3)。

表3. 全体評判抽出 [上位10]

好評語ランキング				不評語ランキング			
単語	品詞	Positive	Negative	単語	品詞	Positive	Negative
支援	名詞	23	-3	職員数	名詞	0	-13
子ども	名詞	20	-11	子ども	名詞	20	-11
環境	名詞	8	-1	職員	名詞	7	-7
人	名詞	8	-1	生活	名詞	0	-4
現状	名詞	7	-4	施設	名詞	6	-4
職員	名詞	7	-7	現状	名詞	7	-4
関わり	名詞	6	-1	ケース	名詞	1	-3
見直し	名詞	6	-1	数	名詞	4	-3
余裕	名詞	6	-1	必要	名詞	6	-3
心	名詞	6	-2	負担	名詞	6	-3

次に男女別と職務継続意思得点別でデータの構造や特徴を見る。

## 2. 男女別

### 1) 頻度分析

#### (1) 単語頻度解析

単語頻度解析を性別で見る(表4-1)。男女別を割合に置き換えた値から見ると、課題上主語となりうる「職員」、「子ども」の2単語を除くと、男女ともに相対的に最も多く出現している単語は、「増やす」であり、それに次ぐ単語を見ると、男性では、「職員配置基準」、「職員数」、「必要」、「向上」、「見直し」、女性では、「職員数」、「必要」、「支援」、「施設」、「職員同士」となっている。

表4-1. 男女別単語頻度解析 [上位20]

単語	品詞	男性	女性	男性割合	女性割合
職員	名詞	105	228	5.6	5.0
子ども	名詞	56	175	3.0	3.9
増やす	動詞	49	104	2.6	2.3
職員数	名詞	33	81	1.8	1.8
必要	名詞	31	78	1.7	1.7
支援	名詞	14	55	0.7	1.2
施設	名詞	21	47	1.1	1.0
向上	名詞	28	39	1.5	0.9
職員配置基準	名詞	40	27	2.1	0.6
職員同士	名詞	13	45	0.7	1.0
良い	形容詞	11	42	0.6	0.9
多い	形容詞	16	33	0.9	0.7
持つ	動詞	15	31	0.8	0.7
人	名詞	11	35	0.6	0.8
余裕	名詞	11	35	0.6	0.8
見直し	名詞	25	18	1.3	0.4
連携	名詞	9	32	0.5	0.7
数	名詞	7	32	0.4	0.7
改善	名詞	18	19	1.0	0.4
環境	名詞	9	28	0.5	0.6

(2)係り受け頻度解析

係り受け頻度解析を「品詞フィルタ=イメージ」および「品詞フィルタ=話題一般」で出力した(表4-2,表4-3)。解析の結果、男性データの持つキーワードとしては、「職員数→少ない」、「施設→小規模化」などが挙げられ、一方、女性データでは、「支援→必要」、「職員数→少ない」、「子ども→良い」などが挙げられることがわかる。

また、全体の係り受け頻度解析で指摘したように、男女別においても「品詞フィルタ=話題一般」では、“職員の数を増やす”という係り受けの頻度が多くなっている。

表4-2.係り受け頻度解析(品詞フィルタ=イメージ) [上位10]

係り元単語	係り元品詞	係り先単語	係り先品詞	男性	女性	男性割合	女性割合
支援	名詞	必要	名詞	2	10	1.6	2.7
職員数	名詞	少ない	形容詞	3	5	2.3	1.4
施設	名詞	小規模化	名詞	3	4	2.3	1.1
子ども	名詞	良い	形容詞	1	5	0.8	1.4
見直し	名詞	必要	名詞	2	3	1.6	0.8
指導	名詞	必要	名詞	0	4	0.0	1.1
余裕	名詞	必要	名詞	1	3	0.8	0.8
環境	名詞	必要	名詞	1	2	0.8	0.5
参加	名詞	必要	名詞	0	3	0.0	0.8
子ども	名詞	多い	形容詞	1	2	0.8	0.5
人間関係	名詞	良い	形容詞	1	2	0.8	0.5
負担	名詞	多い	形容詞	1	2	0.8	0.5
負担	名詞	大きい	形容詞	1	2	0.8	0.5
雰囲気	名詞	必要	名詞	1	2	0.8	0.5
予算	名詞	必要	名詞	1	2	0.8	0.5

表4-3.男女別係り受け頻度解析(品詞フィルタ=話題一般) [上位10]

係り元単語	係り元品詞	係り先単語	係り先品詞	男性	女性	男性割合	女性割合
職員数	名詞	増やす	動詞	15	40	1.8	1.9
職員	名詞	増やす	動詞	12	24	1.5	1.1
質	名詞	向上	名詞	10	13	1.2	0.6
子ども	名詞	関わる	動詞	5	10	0.6	0.5
数	名詞	増やす	動詞	3	11	0.4	0.5
支援	名詞	必要	名詞	2	10	0.2	0.5
職員同士	名詞	連携	名詞	3	8	0.4	0.4
専門性	名詞	向上	名詞	5	6	0.6	0.3
余裕	名詞	持つ	動詞	2	7	0.2	0.3
職員	名詞	負担	名詞	3	5	0.4	0.2
職員数	名詞	少ない	形容詞	3	5	0.4	0.2
職員配置基準	名詞	増やす	動詞	4	4	0.5	0.2
労働条件	名詞	改善	名詞	2	6	0.2	0.3



## 2). 特徴分析

単語頻度解析などの属性別集計では、実際の属性の分布が考慮されていないため、上記の結果が本当に特徴的として判断して良い結果なのかを判断するために、特徴分析を行なう。特徴分析とは、データに付随する属性ごとに、特徴的に出現する単語および係り受け表現を抽出するものである。

### (1)特徴語抽出

性別の特徴語の抽出指標は、「補間類似度(全体に出現回数が多くかつその属性における出現確率の高いものを抽出する)」を使用した(表 5-1)。解析結果より、男女別で見た場合、上位単語において、ひと単語も同じ単語が挙がっておらず、はっきりと性別の違いによる特徴があらわれていることがわかる。男性では、「給料」、「予算」、「措置費」、「人件費」と金銭に関することばや「職員配置基準」、「見直し」、「改善」、「小規模化」、「改正」と政策・制度についてなど、環境整備のニーズが多いことがわかる。一方、女性は、「子ども」、「大切」、「支援」、「見る」、「連携」、「親」、「現状」など実際の援助場面に関することばが多く挙げられている。また、「女性」ということばも特徴語として抽出されており、原文検索すると、結婚・出産後も女性が安心して働ける職場を望んでいることがわかった。

表5-1. 男女別特徴語抽出 [上位20]

男 性		女 性	
単 語	指標値	単 語	指標値
職員配置基準	44.976	子ども	25.111
見直し	27.388	大切	16.049
向上	18.58	支援	13.5
職員	17.194	理解	12.112
給料	16.672	知識	10.734
改善	15.842	現状	9.913
予算	13.557	良い	9.827
措置費	12.736	数	9.639
小規模化	9.8	職員同士	8.638
増やす	9.564	見る	8.346
質	7.779	心	7.892
確保	7.232	親	7.156
少ない	6.316	連携	6.523
改正	6.137	十分	6.42
人材	5.768	意見	6.146
人件費	5.589	大人	5.872
処遇	5.459	女性	5.778
解消	4.947	定期的	5.778
統一	4.947	入所	5.778
増える	4.853	上司	5.598

(2) 特徴表現抽出

特徴表現抽出とは、データに付随する属性ごとに特徴的に出現する係り受け表現を抽出するものである。

男女別に特徴表現を抽出する。抽出する表現品詞の設定は「話題一般」、抽出指標は「補完類似度」を使用した(表 5-2)。解析結果より、男性では、「質－向上」、「職員－意識」、「専門性－向上」、「機会(研修の機会、子どもと関わる機会など)－増やす」、「職員－持つ(他施設職員との交流の機会など)」、「身－つける(子どもたちに対応する力を身につけるの意)」など職員のキャリアアップに関することばや「職員配置基準－改善」、「職員－増やす」、「職員配置基準－増やす」など法制度の見直しによる環境改善に関することばが特徴表現として挙げられている。一方、女性では、「子ども－見る」、「支援－必要」、「入所－子ども」など子どもの支援に関することばや「現状－知る」、「児童養護施設－理解」、「社会－理解」など社会に対して児童養護施設への理解を求めるもの、そして男性同様、「職員－勤務体制」、「職員数－足りる＋ない」、「数－増やす」など労働条件や法制度の見直しによる環境改善に関することばが挙げられていることがわかる。

表5-2. 男女別特徴表現抽出 [上位10]

男 性		女 性	
単 語	指標値	単 語	指標値
質－向上	7.79	子ども－見る	3.14
職員配置基準－改善	5.12	職員－勤務体制	3.14
職員－意識	4.78	支援－必要	3.08
専門性－向上	4.21	現状－知る	2.51
社会－認知	4.16	指導－必要	2.51
職員－増やす	4.09	児童養護施設－理解	2.51
職員配置基準－増やす	3.87	社会－理解	2.51
機会－増やす	3.53	職員数－足りる＋ない	2.51
職員－持つ	3.53	入所－子ども	2.51
身－つける	3.53	数－増やす	2.11

### 3. 職務継続意思得点別

SPSS を使用し、職務継続意思得点を算出の上、得点が全体の 25%以下、25%以上 75%未満、75%以上の 3 群にわけた。今回は、そのうちの得点の高群と低群の 2 群で特徴を見る。

ここで使用する職務継続意思に関する質問項目については、①「今の職場でできる限り仕事を続けていきたい」、②「職場が変わっても児童養護施設でできる限り仕事を続けていきたい」、③「生まれ変わっても児童養護施設で仕事がしたい」の 3 項目について、「1 全然そう思わない」から「5 非常にそう思う」の 5 段階で聞いているものである ( $\alpha=.775$ ; 項目内容の一貫性)。①は現在の職場に対する質問項目への得点であるので、「コミュニティ感觉得点」とし、②・③は児童養護施設での援助職という職業に対する質問項目への得点であるので、「仕事への情熱得点」と名付けた。職務継続意思得点とは、①の得点に②と③の得点を足して 2 で割った得点を足した合計得点のことを指す。

#### 1) 頻度分析

##### (1) 単語頻度解析

単語頻度解析を行った結果、これまでの解析とほぼ同じ結果が出た。解析した表については割愛する。

##### (2) 係り受け頻度解析

係り受け頻度解析を「品詞フィルタ=イメージ」で見る(表 6)。これまでの解析結果と比べて、職務継続意思得点高群(以下、高群)では、「チームワーク必要」、「人間関係ー良い」ということがキーワードとなっていることがわかる。一方、職務継続意思得点低群(以下、低群)では、「職員数ー少ない」、「職員ー少ない」、「数(子どもの)ー多い」と職員配置のことがキーワードとなっている。

表6.職務継続意思得点別係り受け頻度解析(品詞フィルタ=イメージ) [上位10]

係り元単語	係り元品詞	係り先単語	係り先品詞	高群	高群割合	低群	低群割合
支援	名詞	必要	名詞	4	5.3	2	3.7
職員数	名詞	少ない	形容詞	2	2.6	2	3.7
チームワーク	名詞	必要	名詞	2	2.6	0	0.0
子ども	名詞	幸せ	名詞	2	2.6	0	0.0
支援	名詞	難しい	形容詞	1	1.3	1	1.9
職員	名詞	少ない	形容詞	0	0.0	2	3.7
職員配置基準	名詞	厚い	形容詞	2	2.6	0	0.0
人間関係	名詞	良い	形容詞	1	1.3	1	1.9
数	名詞	多い	形容詞	1	1.3	1	1.9
生活	名詞	難しい	形容詞	1	1.3	1	1.9

## 2). 特徴分析

### (1)特徴語抽出

職務継続意思得点別の特徴語の抽出指標は、「補間類似度」を使用した(表 7-1)。解析結果より、低群では、労働環境や条件に関する改善のニーズが多く挙げられていることがわかる。一方、高群はさまざまなことばが挙げられていることがわかる。その中でも、「資質向上」、「力」、「研修」、「育成」、「知る」といったスキルアップ、キャリアアップに関することばや、「関係」、「チームワーク」、「職場」といった職場での人間関係に関することばがキーワードとなっている。

高群		低群	
単語	指標値	単語	指標値
必要	8.468	増やす	8.696
理解	5.621	改善	7.539
国	4.668	連携	5.826
自分	4.572	給料	5.343
出る	3.812	見直し	4.680
認知	3.812	専門的	4.391
関わり	3.715	職員数	4.306
働く	3.715	勤務体制	4.294
持つ	3.329	密	4.198
良い	3.136	多い	3.631
意識	2.859	一人	3.438
育成	2.859	質	3.341
個々	2.859	労働条件	3.245
幸せ	2.859	抜本的	3.148
資質向上	2.859	抱える	3.148
関係	2.762	数	2.581
知る	2.762	人	2.485
力	2.666	少ない	2.292
チームワーク	2.666	親	2.292
研修	2.666	チーム	2.195
職場	2.666	援助者	2.195
		小規模化	2.195

(2) 特徴表現抽出

特徴表現抽出とは、データに付随する属性ごとに特徴的に出現する係り受け表現を抽出する。

職務継続意思得点別に、パラメータを抽出する表現品詞の設定は「話題一般」、抽出指標は「補完類似度」を使用した(表 7-2)。解析結果より、高群では、「チームワーカー必要」、「職員同士関係」といった職場内の人間関係に関して述べていることば、「子ども向き合う」、「子ども話」といった子どもと関われる余裕や時間に述べていることば、「社会認知」、「理解認知」といった施設の理解を求めることについて述べていることば、そして「職員配置基準見直し」、「職員配置基準厚い」といった職員の増員の必要性を述べていることばとなっている。一方、低群では、「職員数増やす」、「労働条件改善」、「職員増やす」、「機会増やす」、「給料増やす」などといった法制度を含む児童養護施設自体の抜本的改革を求めるものや労働環境や条件について述べているものが多いことがわかる。また、「子ども関わる」、「子ども信頼関係」、「子ども抱える」と子どもと関わることへ難しさを感じている様子も伺える。

高群		低群	
単語	指標値	単語	指標値
チームワーカー必要	1.861	職員数増やす	5.935
子ども向き合う	1.861	職員同士連携	3.369
子ども幸せ	1.861	労働条件改善	3.225
子ども話	1.861	子ども関わる	2.439
社会認知	1.861	職員増やす	2.294
職員同士関係	1.861	機会増やす	2.150
職員配置基準見直し	1.861	給料増やす	2.150
職員配置基準厚い	1.861	子ども信頼関係	2.150
理解認知	1.861	子ども抱える	2.150
支援必要	1.572	事務的仕事	2.150
		職員少ない	2.150
		数増やす	2.150
		知識向上	2.150
		抜本的改革	2.150

## V. 総合考察

### (1) 児童養護施設職員の支援向上に関するニーズの全体的特徴

今回の自由記述の分析から、多くの児童養護施設職員が、児童養護施設をさらに良くしていくためには、子どもに対する職員配置の見直し、職員数の増加が必要だと述べている。この背景には、被虐待児など、対応の難しい、より手厚い支援の必要な子どもの入所の増加や支援ニーズの多様性が挙げられる。また職員の手の足りなさからくる子どもとの十分な関わりが持てないという現状もあり、子ども一人一人によりきめ細かい支援を行うためには施設の小規模化も求められている。また、措置費や人件費といった施設運営に関わる金銭的な問題だけでなく、給与の安さから一生の仕事として働けないという状況もある。このように今回の分析により、労働環境や労働条件改善に関するニーズを職員の多くが持っていることが明らかになった。

また、男女別で見ると、男性は自己のスキルアップ、キャリアアップの必要性や労働環境改善の必要性を多く挙げているのに対し、女性は現段階での目の前の子どもへの支援の充実のためのニーズを多く挙げており、男女でニーズ傾向に違いが見られることがわかった。また、女性は、長く仕事を続けたいものの、結婚や出産、育児のために仕事をやめざる得ない状況があり、出産や育児休暇に関する制度の整備の必要性を強く感じていることも明らかになった。

### (2) 職務継続意思の強弱によるグループ比較

今回の分析から、職務継続意思の強弱によるニーズを見てみると、意志が強い群では法制度の見直しと同時に、「チームワーク」や「つながり」が不可欠であると述べられていた。ここから、職務継続意思の強い群の人は、職場の雰囲気やチームワークを大切に考えており、担当職員が一人で背負うのではなく、職員同士の連携をうまく取ることで、子どもたちへのより質の高い支援を目指そうとしているものと考えられる。一方、職務継続意思の弱い群では、メンタルケアを要するさまざまな性格の子どもとの関わりや職場の人間関係が難しいと感じているようであり、そのことが職場継続の意思を困難にしていると考えられる。熱心に親身になって子どもやその親と接しているからこそ、その中で職員は、さまざまなことで傷つき燃え尽きてしまっているような状態なのではないかと考えられる。これまでも現場の職員が、法制度の見直しによる職員数の増加、安心して働ける給与等の労働条件の改善、職員同士や他機関や他職種との良い連携やチームワークの必要性を感じているということは指摘されていたことではあるが、今回はデータに裏付けられたニーズであることが明らかになった。

## VI. 今後の課題

Text Mining Studio ver2.2.1 を活用し、826 人分という大きな自由記述データから児童養護施設職員のニーズを簡潔に浮き彫りにすることができたのではないかとと思う。解析結果により、男女別、職務継続意思得点別ともに、比較群間で抽出されることばにはっきりと違いが出た。今後はこの量的データをもとに、原文検索に戻り、ことばの意味を探る質的な分析を行い、児童養護施設職員が施設をさらに良くしていくために必要であると思っていることについて、各グループ間でのニュアンスの違いについてさらに検討することが必要であろう。

また、最近ではデータに基づいた研究デザインとしてミックス法が着目されている(Creswell,2003)。ミックス法とは、質的分析と量的分析の組み合わせによる研究法のことである。本研究で行ったようなテキストマイニングは、自由記述回答という質的データを量的に裏付ける有効な方法である。このような方法論的吟味も今後の課題である。

## 【謝辞】

本報告をまとめるにあたり、伊藤武彦教授(和光大学)、井上孝代教授(明治学院大学)にご指導をいただきました。また、松上伸丈氏(和光大学)には解析処理の段階で多くの助言をいただきました。心より感謝申し上げます。

※なお、本研究は次の論文の一部となる予定である。

八城真里 2008 児童養護施設職員の職務継続意思に影響をおよぼす諸要因の研究 明治学院大学心理学研究科修士論文 (準備中)

## 【主な参考・引用文献】

- Creswell. J. W. 2003 Research Design; Qualitative, quantitative, and mixed methods approaches (2nd ed.) Sage 操華子・森岡崇(訳) 2007 研究デザイン;質的・量的・そしてミックス法 日本看護協会出版会
- 保坂亨(他) 2004 虐待の援助法に関する文献研究(第1報:1970年代まで)戦後日本社会の「子どもの危機的状況」という視点からの心理社会的分析 子どもの虹情報研修センター紀要 2 pp.114~124.
- 内藤哲雄 2004 PAC分析の適用範囲と実施法 マクロ・カウンセリング研究 3 pp.52-89.
- 岡本眞幸 2000 児童養護施設職員の職場定着に関わる施設の労働体制上の問題点―施設最低基準等の政策レベルの問題と個々の施設レベルの問題に着目して― 横浜女子短期大学紀要 15 pp.1-12.
- 数理システム 2006 Text Mining Studio ver2.2 操作マニュアル 数理システム
- 数理システム 2006 Text Mining Studio ver2.2 チュートリアル 数理システム
- 数理システム 2006 Text Mining Studio ver2.2 技術資料 数理システム
- 八城真里 2008 児童養護施設職員の職務継続意思に影響をおよぼす諸要因の研究 明治学院大学心理学研究科修士論文 (準備中)